



自身の経験を 子どもたちに 伝えたい

Profile こもりだ・なぎさ

平成3年9月12日生まれ。大学卒業後、アメリカでの勤務を経て青年海外協力隊へ応募。小学3年に読んだ「マザーテレサ」の伝記に衝撃を受け、ボランティアに興味を持った。海外経験から英語やポルトガル語に長じる。趣味は映画鑑賞。泗水・田島2区在住。27歳。

「世界を見よう。それから教員になっても遅くない」。自ら決めた遠回り。その経験はかけがえのない財産となり、自らの芯を形作っている。

看護師の母親や剣道指導者の影響で教師に憧れを抱き、大阪教育大学へ進学。しかし、教師を目指す仲間の熱い思いや子どもたちへの深い包容力を間近で感じるにつれ「理想の教師になれるのだろうか」と葛藤。成長できる場所を求め一念発起し、海外へ飛び出した。

選んだ先は青年海外協力隊。平成28年9月から2年間、アフリカ大陸南東部のモザンビーク共和国で、農業普及員として現地住民の指導にあたった。世界最貧国の一つだが、毎日を明るく過ごす人たちに感銘を受けた。「日本と違って時間にルーズで、集合時間を守らない人々にいらだつこともありましたが、でも、偶然の出会いを大切にしたり、一日一日を楽しく生きている姿を見て、会話を重ねるなかで、自分の考えを押し付けるのではなく、相手を理解し、価値観を尊重することの大切さに気がきました」

農業は現地で独学。農家グループと稲作やハチミツ、ココナッツ石鹸作りにもチャレンジ。学習環境を整えるべく、クラウドファンディングを活用して教室を建てるなど精力的に活動した。自分の殻を破る音が、聞こえた。

今後はこれまでの経験を生かし、教師を目指す。「菊池の子どもたちに、日本が恵まれていること、人生にはいろんな選択肢があることを伝えたい。視野を広げ、自立し、自分で考えて行動できる人を育てていきたいです」

「菊池人」 希望者を募集します

新しいことに挑戦している人、伝統を受け継いでいる人など、菊池で頑張っている人を募集します。本市在住であれば自薦・他薦は問いません。詳しくは市長公室までお問い合わせください。

問い合わせ先

市長公室広報交流係
☎ 0968 (25) 7252



元青年海外協力隊

小森田 渚さん



1_農家グループと一緒に農作業に励む 2_着任先で手掛けたはちみつやココナッツ石鹸。「特産品になって農家の収入が増えればうれしいです」 3_小学3年の部活動から始まった剣道。高校では団体で、大学では個人で日本一に輝いた